

◆ 2018年度助成校・団体の活動紹介

# 日産財団ニュースレター (第54号)

2019年10月－11月に訪問した学校・団体の実践を紹介します。2019年11月発行

**福岡県 北九州市立熊西小学校**



4年生総合「ロボットプログラミングに挑戦」の授業の様子。一人一台の作成キットが与えられ、フローチャートなどを駆使し、友達と相談しながら、ロボットカーが迷路を脱出するプログラミングを考えている(写真左)。その後、脱出できた児童の動きを全員で観察し、自分のロボットカーとの動きの違いを観察した(写真中央)。最後に、本時を通じた自身の振り返りを全員が記載し、提出した(写真右)。

**福岡県 広川町立中広川小学校**



6年生理科「水溶液の性質」の授業。チョークの粉で痛めた先生の眼を洗うことを目的に、7つの水溶液からホウ酸水を見つけ出すという目標を設定。今まで身に付けた水溶液の性質の知識と、タブレットに収めた過去の実験結果を使い、どのような実験をすればホウ酸水を見つけ出すことができるかを各班で考え、フローチャートにまとめ、発表。その後、実際に実験を行いながら、ホウ酸水を見つけ出した。

**神奈川県 小田原市立鴨宮中学校**



1年生「いろいろな物質」と2年生「動物の生活と生物の変遷」の授業。1年生では、ストローや鉄球が浮いたり沈んだりする液体があるのは何故かを追求した。(写真右は、水銀が入った瓶の重さに驚いている様子)。2年生では、ヒトの腕とクジラの前あしの骨格の共通点から、共通祖先の存在に気づかせ、「進化」によって、さまざまな生活のあり方が可能になったことを考えさせた(写真左・中央)。

**福岡県 福岡市立平尾中学校**



2年生理科「電流とその利用」の一人一実験の授業。助け合いながら、自分で直列回路と並列回路を組み、回路を流れる電流の大きさを測ることで、それぞれの回路の電流の流れの違いを考え、回路を流れる電流の数的きまりを見つけることが出来た。一人一実験によって、生徒が自ら学ぼうとする意欲をはぐくむことを狙った授業であった。

**福岡県 行橋市立中京中学校**



3年生総合「中京中学校前の用水路にはどのような生物が生息しているか調べよう」の授業の様子。調査会社や大学と協力しながら、学校前にある用水路の水流の速さ・水質・生息している生物を調査している。捕獲した生物を観察しやすい容器に入れて、その種類や特徴などを調べた。最後に、専門家から捕獲した絶滅危惧種であるタナゴとイシガイとの共生などについて学び、学校周辺の自然の希少性や農業との関わりが見つかることができた。

**神奈川県 葉山町立葉山中学校**



2年生理科「動物のなかま」の授業の様子。既習した内容の振り返りとしてコウモリ分類を考察(写真左)したのち、今度は新たに提示された4種類の生物を手で触るなど観察(写真中央)しながら、その分類を個々で理由も含めて考え、グループで意見集約している(写真右)。写真中央の生物はアシナシモリで、外見はミミズに似ているが両生類であり、生徒たちにこのような不思議な生物に出会うことで生物の進化への興味関心を高め、次時以降の「進化」の学習へつなげている。